

イングリット・フジコ・ヘミング

ピアノ ソロ リサイタル 2016

イングリット・フジコ・ヘミング (ピアノ)

Ingrid Fuzjko Hemming, piano

Program

F. シューベルト (1797-1828)
Franz Schubert

即興曲 第3番 変ト長調 4つの即興曲作品90(D.899)より

M. ラヴェル (1875-1937)
Maurice Ravel

亡き王女のためのパヴァーヌ

F. ショパン (1810-1849)
Frédéric Chopin

エチュード 第12番 ハ短調「革命」作品10より

ノクターン 第2番 変ホ長調 3つのノクターン 作品9より

W.A. モーツァルト (1756-1791)
Wolfgang Amadeus Mozart

ソナタ 第11番 イ長調「トルコ行進曲付き」作品331

第1楽章 主題と変奏—アンダンテ・グラツィオーソ

第2楽章 メヌエット

第3楽章 ロンド“トルコ風”—アレグレット

..... intermission

C. ドビュッシー (1862-1918)
Claude Achille Debussy

雨の庭 「版画」より 第3曲

F. リスト (1811-1886)
Franz Liszt

パガニーニによる大練習曲 第6番 イ短調
「主題と変奏」作品141より

ため息 3つの演奏会用練習曲 作品144より 第3番

ラ・カンパネラ パガニーニによる大練習曲 作品141-3

※演奏曲目、曲順が一部変更になる場合がございます。予めご了承下さい。

スウェーデン人画家・建築家の父と、日本人ピアニストの母の間にベルリンで生まれる。母の手ほどきでピアノを始め、10歳でレオニードクロイツァーに師事。クロイツァーは「彼女はいまに世界中の人々を感激させるピアニストになるだろう」と予言していた。東京芸大を経て、文化放送音楽賞・NHK毎日コンクール受賞、その後、ベルリン高等音楽学校に1位で入学。その後、ウィーンでパウル・パドゥラ＝スコダに師事。ブルーノ・マデルナ、レナード・バーンスタイン、チェルカウスキー、マガロフ等多くのクラシック界の権威にその才能を認められて支持を獲得しコンサートを行っていたが、聴力を失うアクシデントに遭遇。1999年、リサイタルとNHKのドキュメント番組が大反響を呼び、デビューCD“奇蹟のカンパネラ”他をリリース。クラシック界異例の売り上げで、日本ゴールドディスク大賞、クラシック・アルバム・オブ・ザ・イヤーを4回受賞した。モスクワ・フィル、ロイヤル・フィルなど世界各地の著名オーケストラと共演。彼女と共演したミッシェル・マイスキーは「あなたの芸術を賞賛します」と形容している他、共演した多くのアーティスト達が絶賛している。また、ヨーロッパの数々のフェスティバルからも招待されている。

ワルシャワのショパンフェスティバル

Zycie Warszawy: responding to a heart-felt standing ovation... enticed the prominent evening audience.

ジチェ・ワルシャワ・ヴィ紙／

特別な招待客の心に響き、スタンディングオベーションを受けた。

The New York Times: Brilliant! She received a standing ovation!

ニューヨークタイムズ紙／

素晴らしい演奏！彼女はスタンディングオベーションを受けた！

毎年多くのチャリティ・コンサートを行っている他、大の動物愛護者であり、ドイツには彼女の名を冠した動物保護団体も出来ている。2013年、スペイン最大のクラシック・ラジオ番組「カタルーニャ・ラジオ」のリスナーにより、フジコの最新CDが1位に選ばれた。2014年には9月から11月までヨーロッパ9カ国11会場で演奏会を開催し、各地でスタンディングオベーションを受け好評を博した。2015年6月にはブラハララジオシンフォニーと共演、12月にはキエフ国立フィルハーモニーと共演し素晴らしい演奏に拍手の嵐であった。2016年3月ロサンゼルスやシカゴで公演4月には、ニューヨークの国連加盟60周年記念の文化事業で演奏、その後チリ、プエノスアイレス、パラグアイとアメリカから南米の演奏会でスタンディングオベーションを受け、好評でツアーを終えた。今後の予定として2016年12月に銀座ヤマハホールの公演がひかえている。

企画制作：ラ・カンパネラ/青葉ピアノ